



森林レンジャーあきる野新聞

Vol.23

2012年5月号

発行:森林レンジャーあきる野

あきる野の小学生の自然体験学習が始まりました！

増戸小学校から見た秋川丘陵の景色



4月19日（木）増戸小学校4年生の校外学習を秋川丘陵（弁天山-小峰公園）で行いました。92名の元気な子どもたちは、発見したものをスケッチしたりレンジャーの説明を受けたりして、春の自然を心と体で存分に学んだ1日となりました。自分たちが住んでいる地域の自然を知った子どもたちは、10月に小宮地区の自然を体験する予定です。同じ市内でも全く違う環境が存在することを驚きや発見と共に経験してほしいと思います。

5月から小宮地区の自然を中心に、市内の小学生などの自然体験学習を実施します。私たちが学習のサポート役として自然を紹介し、市内の子どもたちに自然と触れ合える場を提供していきます。森林レンジャーもたくさん子ども達と出会えることが楽しみです！（加瀬澤）

みんなの一日

写真 篠木 眞

(5月から開校する「小宮ふるさと自然体験学校」の校長です)



色とりどりの春が来た



ジュウニヒトエをじっくりスケッチ



ミツバツツジの話に聞き入って



野生動物が登った痕跡を見て推理



フン発見！フンから正体がわかる



白熱！！オタマジャクシゲーム



オタマと命のつながりを知る



谷津田に住む生き物を想う

日光浴中...

爬虫類

「昔は多かったねえ」、「夏によく畑にいるから追い払ったよ」。山間に暮らす人々に蛇のことを聞いてみると、このような発言が必ず出てきます。「別に、噛まれたことないけど...」、「特に悪さはしないけど...」などもよく耳にしますが、スペインでも日本でも、人々は基本的に爬虫類は嫌なものというイメージを持っています。私は幼いころから両生類や爬虫類が好きで、彼らの生態をよく知っているのも、そのような話を聞くと、少し悲しい気持ちになります。自然の中で大変重要な役割を担っている爬虫類たちは、人間が思うよりずっと私たちの役に立っています。繁殖力の強い害虫や畑のネズミなどをうまくコントロールしてくれる生き物です。



「ニホントカゲ」
春の晴れた日に、野山に出かければ必ず会えます。カナヘビとよく勘違いされますが、実は全体の色や体のバランスからうろこの形まで大分違い、遺伝的にもかなり離れています。



「アオダイショウ」あきる野で最も観察される蛇です。本州最大の蛇で、全長2mを超えることがあります。1.8mを超える個体は一度も見たことがありません。大人の身長より長い個体を見かければラッキーだと思ってください。



幻の蛇、「タカチホヘビ」(上写真)は小さく、頭を土に突っ込めば、あっという間に姿を消します。潜りながらアリなどの小さな昆虫を捕食しますので、地面に出ることはほとんどありません。観察されるチャンスは非常に少ないですが、様々な環境に生息しています。

皆が怖がる「ニホンマムシ」(右写真)の子ども。本種は急激な個体数の減少により、東京都の絶滅危惧種になっています。実は、あきる野で見られる蛇の中で、最もおとなしい蛇かも知れません。人が足元に注意すれば、かまれることはほとんどありません。



色と香りの季節になって、厳しい冬を乗り越えた生き物たちは、みるみる活動的になってきました。昆虫、両生類などがさっそく数を増やし、美しい声で鳴く夏鳥たちも飛来中です。哺乳類も子育てを始めましたが、一年間のサイクルの中で、爬虫類にとっても春はとても重要な季節です。早めに交尾と産卵を行って、晩秋の寒い日々がやって来る前に、子どもたちがある程度成長しないと越冬は厳しくなります。爬虫類は安定して体温を保つことができず、生息する環境の温度に影響を受けやすい、とても敏感な生き物なのです。蛇は、種類にもよりますが、18℃～30℃位の気温帯で活発に活動し、冬の寒さや夏の暑さが苦手です。

「こんな太い蛇を見たのよ」、と養沢で年輩の方が両手を使って、私の太もも位の太さを表現しながら、昔の大蛇との出会いについて話してくれました。その太さがあれば、アナコンダやボア並の体長4m以上の巨大蛇になります。少し大げさな話でしょうかとは思いますが、かなり大物の蛇を見たに違いありません。「恐らく、大きなアオダイショウでしょう。」と私はその方に答えました。しかし、実はそれ以来、春や夏の季節に養沢の山に入ると、あの伝説の大蛇のことを想像してテンションが急に上がります。まだ遭遇していないツキノワグマと同様に、2m超えの大きなアオダイショウにも出会いたいものです。

あきる野では14種類の在来の爬虫類が見られます。活発なこの時期に観察してみたいかがでしょうか。

[パブロ]



森っこサンちゃん